



**Hewlett Packard
Enterprise**

HPE 3PAR StoreServ Management Console 3.4 リリースノート

摘要

本書の情報は、Hewlett Packard Enterprise のお客様、パートナー、および Hewlett Packard Enterprise のサービス担当者を対象としています。本リリースノートでは、HPE 3PAR StoreServ Management Console 3.4 の機能および問題の修正について説明しています。

部品番号: QL226-99900
発行: 2018 年 9 月
版数: 1

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーション、および商用製品の技術データ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダー標準の商用使用許諾のもとで、米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外の情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

商標

Microsoft® および Windows® は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

Java® および Oracle® は、Oracle および/またはその関連会社の登録商標です。

VMware®、VMware® vCenter Server®、および VMware vSphere® Web Client は、米国および/またはその他の国および地域での VMware, Inc. の登録商標または商標です。

目次

HPE 3PAR StoreServ Management Console 3.4 リリースノート	4
説明.....	4
新機能.....	4
アップデートの推奨.....	8
後継情報.....	8
製品.....	8
SSMC の互換性および相互運用性.....	8
SSMC の情報への SPOCK でのアクセス.....	9
SSMC でサポートされている HPE 3PAR オペレーティングシステム.....	9
SSMC でサポートされているブラウザ.....	9
SSMC でサポートされているプロキシ設定.....	9
言語.....	9
前提条件.....	10
システム要件.....	10
サーバーサイジング情報.....	11
SSMC のセキュリティ設定.....	11
SSMC の LDAP 設定.....	11
SSMC アプライアンスのアップグレードに関する留意事項.....	11
仮想アプライアンスとしての SSMC のデプロイ.....	12
インストーラーベースの SSMC デプロイから SSMC アプライアンスへの移行.....	12
SSMC の HPE InfoSight.....	13
修正点.....	14
既知の問題と回避策.....	14
関連情報.....	23
ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	23

HPE 3PAR StoreServ Management Console

3.4 リリースノート

説明

このリリースノートでは、HPE 3PAR StoreServ Management Console (SSMC) 3.4 の新機能、問題の修正について説明します。SSMC は、1つのパッケージとしてインストールされるスタンドアロン製品です。SSMC は、Administrator Console と Main Console の2つのコンソールからなっています。Administrator Console では、HPE 3PAR StoreServ システムを追加、切断、削除、およびアップグレードし、3PAR StoreServ ストレージレイ用の証明書を管理することができます。Main Console からは、3PAR StoreServ システムを管理するための機能を使用することができます。Administrator Console に関連するドキュメントについては、[HPE 3PAR StoreServ Management Console 管理者ガイド](#)を参照してください。Main Console に関連するドキュメントについては、[HPE 3PAR StoreServ Management Console ユーザーガイド](#)を参照してください。関連ドキュメントは、[HPE Storage Information Library](#) で入手できます。

❗ **重要:** HPE 3PAR オペレーティングシステム 3.2.2 のリリースにより、SSMC は、3PAR OS 3.2.2 およびそれ以降のバージョンをサポートする 3PAR アレイのデフォルトの管理ツールとなりました。HPE 3PAR Management Console (MC) はサポートが終了しました。

詳しくは

[HPE Storage Information Library](#)

新機能

3PAR OS 3.3.1 (および現行の MU) のサポートに加えて、SSMC 3.4 には、以下の表に記載されている新機能が含まれています。

SSMC 3.4 は、仮想アプライアンスとしてのみ使用できます。SSMC アプライアンスは、Debian オペレーティングシステムで実行する構成済み仮想マシンです。SSMC アプライアンスについて詳しくは、[HPE 3PAR StoreServ Management Console 管理者ガイド](#)を参照してください。

カテゴリ	項目	SSMC 3.4 での新機能
全般**	ダッシュボード** アクティビティ** スケジュール** 設定**	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最もリソースを使用しているシステム、パフォーマンスへの影響、パフォーマンスの問題の影響を受けるボリュームを表示します。 ・ パフォーマンス異常値、飽和状態のシステム、IO/秒によるボリュームホットスポットのトップ、および遅延によるボリュームホットスポットのトップのパネルをダッシュボードに表示します。 ・ HPE 3PAR アレイで HPE InfoSight アラートを表示します。 ・ HPE InfoSight への接続、Web プロキシアドレス、Web プロキシポート、Web プロキシユーザー、Web プロキシパスワードが追加されました。 ・ 詳細なシステムパフォーマンスと分析レポートが追加されました。 ・ HPE 3PAR SSMC で SMTP サーバー設定を構成するために SMTP パネルが追加されています。
Block Persona**	ホスト ホストセット 仮想ボリューム 仮想ボリュームセット 共通プロビジョニンググループ ポリシー	<ul style="list-style-type: none"> ・ ターゲットシステム、プロトコル、保持、および有効期限を定義する保護ポリシーを作成して管理します。 ・ Cloud Bank ストアバックアップと Cloud Bank ストアコピー機能がポリシーに含まれました。

表は続く

カテゴリ	項目	SSMC 3.4 での新機能
File Persona	ファイル共有 ファイルストア	<ul style="list-style-type: none"> ・ HPE 3PAR SSMC 3.4 からの自動同期ポリシーをサポートします。
	仮想ファイルサーバー ファイルプロビジョニンググループ File Persona 構成	<p>注記: 自動同期と自動フェイルオーバーの両方が有効になっている場合、ファイルプロビジョニンググループ (FPG) はサポートされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自動同期オプションが有効になっている場合、接続された Remote Copy グループでフェイルオーバー操作を実行すると、自動的に切り替えられます。 ・ ファイルプロビジョニンググループのアクションメニューから Remote Copy グループのフェイルオーバーオプションを選択したときに、警告メッセージが表示されます。 ・ 接続されている Remote Copy グループの自動同期ステータスが表示されます。 ・ コンプライアンス admin パス監査は、VFS で発行されたコンプライアンスコマンドの監査ログを提供します。デュアルサインオンでのすべてのコマンドが監査され、コンプライアンスを有効にした場合、監査は暗黙的に開始されます。監査ログは VFS ごとに作成されます。 ・ admin 監査ログファイルを表示し、削除します。 <p>注記: ユーザーが削除を許可されるのは .zip ファイルのみです。 .log ファイルを削除することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ admin 監査ログファイルのリストを表示します。 ・ パス管理が有効になっているグループのフェイルオーバーをサポートするプッシュボタン。
Storage Optimization	Adaptive Flash Cache Adaptive Optimization Priority Optimization	—
データ保護	Remote Copy 構成 Remote Copy グループ RMC 認証情報 復元ポイント	Remote Copy グループに対して自動同期ポリシーを有効にすることができます。

表は続く

カテゴリ	項目	SSMC 3.4 での新機能
ストレージシステム**	システム** コントローラーノード** ポート** ドライブエンクロージャー** 物理ドライブ**	<ul style="list-style-type: none"> 分析ビューには、ストレージシステムのパフォーマンスと飽和に関する情報が表示されます。 詳細分析では、5分間隔で記録された読み取りおよび書き込みスループットの観測値が縦棒グラフで報告されます。
連携	連携構成 Peer Motion	Peer Motion の開始の完了時にメール送信します。
System Reporter**	レポート** しきい値アラート** 詳細分析	<ul style="list-style-type: none"> 選択したシステムの詳細分析は、読み取りと書き込みのワークロードそれぞれのスループットと IOPS について、選択可能な期間でのパフォーマンスに与える影響を識別します。 詳細分析はレイテンシと IOPS が異常に大きいボリュームを識別します。 選択したシステムの分析は、選択可能な期間でのリソース稼働率とパフォーマンスに与える影響を識別します。 メールのスケジュールオプションでは、各レポートのメール受信者を構成できます。 保存オプションを使用すると、レポートの編集ダイアログに移動する代わりに、対話型メニューを使用して行ったすべての変更を自身が作成したレポートにアップデートできます。 別名で保存オプションを使用すると、パブリックまたはシステム生成レポートの対話型メニューの変更を含むレポートを作成できます。 メール受信者フィールドでは、しきい値アラートごとのメール受信者を構成できます。
セキュリティ**	ユーザー** LDAP ロール 接続 ドメイン	セキュリティとマネージャビリティが向上しました。

表は続く

カテゴリ	項目	SSMC 3.4 での新機能
VMware	ストレージコンテナ 仮想マシン	—
その他	ユーザーインター フェイス	<ul style="list-style-type: none"> このページを印刷機能がオンラインヘルプに追加されます。 オンラインヘルプの検索結果に、内容の断片が含まれます。 Administrator Console の変更は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Administrator Console から、SSMC をアップグレードできます。アップグレード時に、SSMC からストレージシステムを削除する必要はありません。

アップデートの推奨

推奨されています。

後継情報

更新された情報: HPE 3PAR StoreServ Management Console 3.3。

製品

- ・ HPE 3PAR StoreServ 7000 ストレージシリーズ
- ・ HPE 3PAR StoreServ 8000 ストレージシリーズ
- ・ HPE 3PAR StoreServ 9000 ストレージシリーズ
- ・ HPE 3PAR StoreServ 10000 ストレージシリーズ
- ・ HPE 3PAR StoreServ 20000 ストレージシリーズ

SSMC 2.2 以降では、最大 32 台の 3PAR StoreServ ストレージアレイを接続および管理できます。

最新の情報にアクセスするには、[SSMC の情報への SPOCK でのアクセス](#)を参照してください。

- ❗ **重要:** 日本ヒューレット・パッカー株式会社 (HPE) はお客様のプライバシーの尊重をお約束します。HPE アプリケーションは必要に応じて、当社がお客様からどのような個人情報を収集し、当社が個人情報をどのように使用しているかについて適切な通知を行い、この個人情報を HPE と共有するかどうかについてお客様が選択できるようにするために、これまで改善され続け、今後も改善される予定です。当社が収集、使用、開示、および転送する個人データや、お客様が行うことができる選択、さらに個人データに関連して行使できる権利などの HPE プライバシー保護方針について詳しくは、[HPE プライバシーステートメント](#)を参照してください。

SSMC の互換性および相互運用性

サポートされているブラウザ、サーバーモデル、ファームウェア、およびオペレーティングシステムについての最新の詳細情報は、[SSMC の情報への SPOCK でのアクセス](#)を参照してください。

SSMC の情報への SPOCK でのアクセス

手順

1. ブラウザーから SPOCK (<https://h20272.www2.hpe.com/spock/>) へログオンします。
2. SPOCK ホームページの左ナビゲーションペインを表示し、Software 見出しまで下にスクロールします。
3. **Array SW: 3PAR** をクリックします。
4. 3PAR Array Software ウィンドウを表示し、HPE 3PAR Operating System Software: Array Software 見出しまで下にスクロールします。
5. HPE 3PAR StoreServ Management Console の下の **HPE 3PAR SSMC** をクリックします。

SSMC でサポートされている HPE 3PAR オペレーティングシステム

- ・ HPE 3PAR OS 3.2.1 およびすべての MU (HPE 3PAR StoreServ 7000 および 10000 ストレージアレイ)
- ・ HPE 3PAR OS 3.2.2 およびすべての MU (HPE 3PAR StoreServ 7000、8000、10000、および 20000 ストレージアレイ)
- ・ HPE 3PAR OS 3.3.1 およびすべての MU (HPE 3PAR StoreServ 7000、8000、9000、10000、および 20000 ストレージアレイ)

最新の情報にアクセスするには、[SSMC の情報への SPOCK でのアクセス](#)を参照してください。

SSMC でサポートされているブラウザ

HPE 3PAR StoreServ Management Console (64 ビット推奨) に接続する場合、以下のブラウザがサポートされています。

- ・ Microsoft Internet Explorer
- ・ Microsoft Edge
- ・ Google Chrome
- ・ Mozilla Firefox

最新バージョンについての情報は、[SSMC の情報への SPOCK でのアクセス](#)を参照してください。

注記: HPE では、SSMC の操作性とパフォーマンスの向上のため、Google Chrome の使用をお勧めしています。

SSMC でサポートされているプロキシ設定

インターネットに接続されている場合、SSMC は HTTPS v1.2 のみでプロキシをサポートしています。SSMC では、Socket Secure (SOCKS) プロキシはサポートされていません。

言語

SSMC は英語、ドイツ語、日本語、および簡体字中国語をサポートしています。

前提条件

手順

1. SSMC をインストールするシステムが、SSMC の互換性および相互運用性の要件を満たしていることを確認します。
2. ご使用中の CPU のサイズおよびメモリアドレスが、目的を十分満たしていることを確認します（サーバーサイジング情報を参照してください）。
3. SSMC のセキュリティ設定を使用して、SSMC のセキュリティをセットアップします。

詳しくは

[SSMC の互換性および相互運用性\(8 ページ\)](#)

[SSMC のセキュリティ設定\(11 ページ\)](#)

システム要件

最小システム要件は以下のとおりです。

- ・ SSMC 仮想アプライアンスでは、HPE は、（オペレーティングシステムではなく）ハイパーバイザーのみへの SSMC のデプロイをサポートしています。以下のハイパーバイザーがサポートされます。
 - VMware ESXi バージョン 6.0、6.5、6.7
 - Microsoft Hyper-V Server 2012 R2、Microsoft Hyper-V Server 2016
- ・ サーバーサイジングについては、[サーバーサイジング情報](#)を参照してください。
- ・ 連携のメンバーシップおよび互換性には、以下の要件があります。
 - 3PAR オペレーティングシステム 3.2.2 以降
 - Peer Motion、ストレージ連携、および Online Import ライセンス
 - ケーブル接続およびポート構成の要件（[HPE Storage Information Library](#) を参照）。

ⓘ 重要: 1つのストレージ連携を管理できるのは、1つの SSMC インスタンスのみです。

- ・ HPE Recovery Manager Central (RMC) の HPE 3PAR SSMC との互換性には、次の前提条件を満たしている必要があります。
 - HPE 3PAR オペレーティングシステム 3.2.2 以降をインストールします。
 - 同じ HPE StoreServ ストレージシステムに SSMC と RMC を構成します。
 - SSMC が HTTP を使用して RMC に接続できることを確認します。
 - RMC で保護ポリシーを作成します。

注記:

- ・ HPE 3PAR SSMC の **RMC 認証情報**によって、最大 4 つの HPE RMC インスタンスを追加できます。
- ・ 現在 SSMC は RMC 5.x.x 以降のバージョンをサポートしています。

詳細については、HPE Storage Information Library の HPE Recover Manager Central (RMC) のドキュメントを参照してください。

詳しくは

[SSMC の情報への SPOCK でのアクセス\(9 ページ\)](#)
[HPE Storage Information Library](#)

サーバーサイジング情報

SSMC をデプロイする際の必要なサーバーサイジングの考慮事項を以下に示します。

デプロイの構成	管理対象アレイの 数	管理対象オブジェ クトの数	管理対象 vCPU の 数	システムメモリ
小	8	128 K	4	16 GB
中	16	256 K	8	32 GB
大	32	500 K	16	48 GB

SSMC のセキュリティ設定

認証機関、Two-Factor 認証、FIPS について詳しくは、HPE 3PAR StoreServ Management Console 管理者ガイドおよび HPE 3PAR StoreServ Management Console ユーザーガイドを参照してください。

詳しくは

[HPE Storage Information Library](#)

SSMC の LDAP 設定

LDAP サーバーは、3PAR StoreServ ストレージシステムアレイへの接続に使用される認証方法です。HPE 3PAR SSMC を使用して、StoreServ アレイに LDAP 認証を構成できます。

SSMC は、LDAP サーバーの情報を使用して、LDAP ユーザーの認証および承認を行います。複数のストレージシステムが同じ LDAP サーバーを使用している場合、承認されたユーザーは、同じ LDAP 構成のすべてのサーバーにアクセスするために同じ認証情報を使用できます。

HPE 3PAR OS には、ストレージシステムユーザーの認証および承認に LDAP サーバーを使用するように構成できる LDAP クライアントが含まれています。

SSMC の LDAP 設定を構成するには、HPE 3PAR StoreServ Management Console ユーザーガイドを参照してください。

SSMC アプライアンスのアップグレードに関する留意事項

前提条件

アップグレードが失敗した場合に備えて SSMC アプライアンスのバックアップを取ります。このバックアップは、データの破損やデータの損失時の SSMC インスタンスのリストアに役立ちます。

- ・ アップグレードにより SSMC サービスが再起動します。HPE では、慎重にダウンタイムを計画することをお勧めします。
- ・ ダウングレードはサポート対象外です。
- ・ SSMC アプライアンスのアップグレードは、SSMC 3.4 以降のリリースでサポートされます。

SSMC アプライアンスのアップグレードの留意事項について詳しくは、HPE 3PAR StoreServ Management Console 管理者ガイドを参照してください。

仮想アプライアンスとしての SSMC のデプロイ

SSMC 3.4 リリース以降、SSMC は仮想アプライアンスとしてのみ使用できます。

SSMC アプライアンスは、Debian オペレーティングシステムで実行する事前構成済み仮想マシンです。SSMC アプライアンスは、1つの仮想アプライアンスに詳細分析やエラスティック検索などの複数の SSMC サービスをパッケージ化し、お客様のデプロイの複雑さを軽減します。SSMC デプロイアーキテクチャーでは、ハイパーバイザーで提供される高可用性機能を利用します。

SSMC アプライアンスは、様々な環境をサポートすることを過度に重視していません。たとえば、Microsoft Windows、Linux、パッチ、ウィルス対策、堅牢化などです。

SSMC 仮想アプライアンスソフトウェアは、VMware vSphere ハイパーバイザー用の Open Virtual Format (OVF) 形式、および Microsoft Hyper-V 用の自己解凍型仮想ハードディスク (VHD) 形式で提供されます。SSMC アプライアンスは、Microsoft Hyper-V (Windows Server 2012 R2 または 2016) および VMware vSphere ハイパーバイザー (VMware ESXi 6.0 または 6.5 または 6.7) でサポートされます。

仮想アプライアンスとしての SSMC のデプロイについて詳しくは、HPE 3PAR StoreServ Management Console 管理者ガイドを参照してください。

インストーラーベースの SSMC デプロイから SSMC アプライアンスへの移行

前提条件：

- ・ 管理者または root ユーザーのみが移行を開始できます。
- ・ アプライアンスがソース SSMC マシンから到達可能であることを確認します。
- ・ SSMC 3.2 および 3.3 から SSMC 3.4 への移行だけが許可されます。SSMC 3.2 以前のバージョンからの移行は実行できません。SSMC が必要な最小バージョンでない場合、移行の前に SSMC をアップグレードする必要があります。

SSMC は 3.4 リリース以降、仮想アプライアンスとしてのみ使用できます。以前の SSMC デプロイから移行する予定の場合は、HPE 3PAR SSMC 移行ツールを使用します。

HPE 3PAR SSMC 移行ツールは、Windows および Linux 環境で使用できる個別のインストーラーです。現在以前の SSMC インスタンスをホストしているマシンまたは VM から移行ツールをインストールし実行します。

ブラウザーからのインバウンド通信を許可するために、SSMC はインバウンドポート 8443 (デフォルト) を使用します。

△ 注意：

- ・ 移行の前に SSMC アプライアンスに管理者の認証情報またはいかなる認証情報も設定しないでください。管理者の認証情報を設定した場合、移行は失敗します。移行サービスは常に、SSMC での認証情報または設定を確認します。構成が事前に存在する場合は、移行が失敗します。移行エラーステータスは、ユーザーに通知されます。
 - ・ 移行ツールから入力が求められたら、SSMC アプライアンスのデプロイ時に ssmcadmin ユーザーに提供したものと同一パスワードを使用します。
 - ・ カスタムパスに保存されている SR レポートは、ディレクトリ `/var/opt/hpe/ssmc/data/persist/scheduledreports/users/` に格納されます。
 - ・ すでに定義された管理者認証情報をクリアし、再度移行を実行する場合、アプライアンスの設定が変更されます。
-

次の表は、HPE 3PAR SSMC 移行ツールを使用して移行されるコンポーネントと、移行されないコンポーネントを示しています。

移行されるコンポーネント	移行されないコンポーネント
SSMC 管理者認証情報	ログ
SSMC の構成済みアレイおよびそれらの認証情報	SSMC ポート構成（アプライアンスで常に 8443）
SR レポート	SR レポートカスタムパス
HPE 3PAR RMC 構成	
CA 署名済み証明書	
FIPS モード構成	

⚠ 警告: 移行により、ターゲットアプライアンスに構成されている CA 署名付き証明書が置き換えられることがあります。HPE では、移行後にのみ、アプライアンスの CA 証明書を構成することをお勧めします。移行前にアプライアンスの CA 署名付き証明書を構成する場合、CA 証明書を再度構成しなければならない場合があります。

SSMC の CA 署名付き証明書を構成するには、HPE 3PAR StoreServ Management Console 管理者ガイドを参照してください。

HPE 3PAR SSMC の移行は、2 段階のプロセスです。最初の手順で、SSMC 構成が移行され、以前に生成された SR レポートの表示の機能を除いて、ターゲットアプライアンスを使用できます。2 番目の手順で、ユーザーは SR レポートを移行するように求められます。ユーザーが SR 移行を選択すると、SR レポートの移行が開始されます。

注記: SR レポートの移行は、レポートの合計サイズによっては長い時間かかる場合があります。ネットワークの中断や再起動のためにこの移行が失敗した場合は、移行ツールを再実行します。障害のために移行されなかったレポートに対して、SR レポートの移行が再開されます。

HPE 3PAR SSMC 移行ツールは、Windows および Linux 環境で使用でき、移行のための個別の手順が含まれます。

- ・ 新しい SSMC アプライアンスへの Windows ベースの SSMC デプロイの移行
- ・ 新しい SSMC アプライアンスへの RHEL ベースの SSMC デプロイの移行

移行について詳しくは、HPE 3PAR StoreServ Management Console 管理者ガイドを参照してください。

SSMC の HPE InfoSight

HPE InfoSight は、ストレージシステムから（サービスプロセッサ経由で）送信されるコールホームデータを分析し、機械学習アルゴリズムを実行して、有益なデータの情報をマイニングします。これらの有益な情報は、アラートとして SSMC に戻されます。

HPE InfoSight への SSMC の接続を有効にすると、SSMC はユーザーにシステムのヘルスについてのプロアクティブ通知を表示できます。さらに、アラートはストレージシステムのパフォーマンス、データが利用できなくなる可能性、データ損失の問題などの様々な問題を軽減するために役立つ適切なアクションも提案します。

HPE InfoSight アラートは、定期的に SSMC からフェッチされます。

HPE InfoSight の構成について詳しくは、HPE 3PAR StoreServ Management Console 管理者ガイドおよび HPE 3PAR StoreServ Management Console ユーザーガイドを参照してください。

修正点

このバージョンでは、以下の問題が修正されています。

問題 ID	問題の説明
235356、235471	以下の問題は、OS のアップグレード（HPE 3PAR OS 3.3.1 MU2 へのアップグレード）後に見られます。 <ul style="list-style-type: none">Remote Copy 構成ページでクラスターを選択後、システムは HTTP 500 エラーを返します。HPE 3PAR OS 3.3.1 (MU2) にアップグレードされたストレージシステムの仮想マシンに関する情報がありません。
220040	SSMC 検索では、RMC が作成した保護ポリシーを検出しません。

既知の問題と回避策

- ❗ **重要:** HPE 3PAR Remote Copy 非同期ストリーミング構成は、圧縮をサポートしていません。圧縮されたボリュームには、非同期ストリーミング複製モードを使用しないでください。

レポート :

- ユーザーがレポートをスケジュールする場合、スケジュールがトリガーされたときにアクティビティに表示される所有者に、SSMC にアレイを追加したユーザーのユーザー名が表示されます。
- 容量レポートでは、異なるタイムゾーンにある 3PAR StoreServ システムはサポートされません。
- アクセスカウンターのパーセント領域があるヒストグラムレポートでは、PDF へのエクスポートおよびスケジュール済みレポートの PDF はサポートされていません。
- 意味のあるデータを比較レポートが提供するのとは、同じバージョンの 3PAR オペレーティングシステムを実行しているシステムを比較する場合だけです。バージョンによっては、サポートされているメトリック/オプションが異なります。
- 特定の時刻データでは、高解像度サンプリング間隔の次へおよび前へオプションは、オンノードの SR で設定された高解像度サンプリング間隔にかかわらず、必ず 5 分固定になっています。
- 20k を超えるレコードを要求するレポートを作成すると、表示するデータがありませんという RHS レポートが生成されます。20k を超えるレコードを要求するスケジュール済みタスクは失敗します。代わりに、フィルターを使用して要求を絞り込んでください。

しきい値アラート :

- CLI または SSMC を使用して作成され、その後 CLI を使用して変更されたアラートルールについては、しきい値アラートの編集はサポートされていません。3PAR CLI クライアントを使用してアラートを編集してください。
- SSMC がサポートしていないオプションを指定して CLI で作成されたしきい値アラートでは、適切な詳細が概要に含まれていないことがあります。これらのアラートパラメーターを参照するには、3PAR CLI クライアントを使用してください。

一般的な問題

問題 ID	問題	説明	対処法
122152	SSMC からのファイルサービスの削除が失敗します。	VFS およびファイルストアを削除しようとすると、失敗します。	SSMC からすべてのファイルサービスコンポーネントを削除する場合は、SSMC から File Persona グループを削除してください。これにより、すべての子オブジェクトが同時に削除されます。
122178	隔離ファイルの移動が成功しますが、アクティビティは失敗を報告します。	ファイルが移動されていても、隔離ファイルを移動するためのウイルス対策 (AV) 隔離を管理の使用によるアクティビティが失敗を報告することがあります。これは、移動されたファイルのパーミッションが、移動後に保持されないことにより発生します。	エラーが報告されていても隔離ファイルが移動されていることを確認してください。移動されたファイルのパーミッションを調べ、正しいことを確認してください。
122205	アクションメニューが表示されないことがあります。	左側のリストペインを展開し、フィルターサイドバーまたはアクティビティサイドバーを表示した場合、アクションメニューが表示されないことがあります。	左側のリストペインを展開しないか、高い画面解像度を使用するか、またはブラウザのウィンドウサイズを大きくしてください。
122838	レポート作成/Edit report ダイアログは、常にブラウザのローカルタイムゾーンを使用します。	StoreServ ストレージシステムおよび SSMC ブラウザーが別のタイムゾーンを使用している場合、カスタムタイムレポートの生成中に、StoreServ の時刻を直接入力することはできません。	StoreServ の時刻を手動でブラウザのローカル時刻に変換し、変換後の時刻をカスタムタイムとして入力してください。
124078	ファイルオブジェクトの編集または作成時に、以下のような障害メッセージが出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Failed: status=500, exception • Failed: unmatched open brace in list • Failed: list element in braces followed by "\" instead of space • FAILED : Command contains unprintable characters: 	コメントフィールドに特殊文字を指定して FPG、VFS、ファイルストア、またはファイル共有を作成および編集すると、作成または編集が失敗するか、またはコメントが正しく表示されないことがあります。	コメントフィールドでは特殊文字を使用しないでください。

表は続く

問題 ID	問題	説明	対処法
127408	削除されたレポートオブジェクトが、レポート中に表示され続けます。	特定のオブジェクトを選択してレポートを生成した後、選択されたすべてのオブジェクトを削除した場合、レポートは引き続きすべてのオブジェクトを表示します。	選択されたオブジェクトを削除するときにレポートも削除し、新しいオブジェクトを選択してレポートを作成してください。
129834	レポートが重大または警告の状態でも、エラーメッセージが生成されません。	SSMC は、レポートが不正な状態に入った場合、エラーメッセージを表示しないことがあります。たとえば、アレイ上でオンノードの System Reporter サービスが動作していない場合、レポートは不正な状態に入り、エラーメッセージは SSMC に表示されません。	なし
136797	テーブル内の多数の項目を選択するとサーバーエラーが発生します。	テーブル内で 99 個を超える項目を選択すると、サーバーエラーが発生することがあります。	ブラウザをリフレッシュしてエラーをクリアしてください。この問題を防止するには、選択するオブジェクトの数を 99 個未満に制限してください。
138893	アクティブノードを再起動するときに、システムが 500 エラーを返します。	アクティブノードが SSMC の Adaptive Flash Cache ページ上にあるときにそのノードをアレイから再起動すると、システムはサーバー 500 エラーを返します。	Adaptive Flash Cache ページを表示しているときにアレイのアクティブノードを再起動しないでください。
139231	タッチスクリーンデバイスを使用する場合、マップビューが正常に動作しません。	タブレットユーザーがマップビューでタッチコントロールを使用する場合、オブジェクトにカーソルを合わせてその情報を表示することはできません。スクリーン上を移動する指などがそのオブジェクトにわずかに接触しただけで、別の画面がユーザーに表示されます。	デスクトップブラウザまたは外部ポインティングデバイスを使用してください。
139556	ローカル言語のフォント関連の問題	SSMC では現在、英語および日本語フォントのみが利用できます。	---
144309	Host Explorer のテーブルに表示されないホストがあります。	クラスターに属しているホスト名をユーザーが削除した場合、 SSMC の FC の追加 ダイアログには、そのクラスターホストに関連する一部のホストが表示されないことがあります。	クラスターホストに関連する WWN を使用して、クラスターホストを作成してください。

表は続く

問題 ID	問題	説明	対処法
146347	ボリュームをエクスポートすると、情報が表示されません。	ボリュームをエクスポートすると、SSMC は RHS ボリュームエクスポートテーブルの Multipathing、FailedPathPolicy、および MonIntervalSecs データを、必ずしも表示していませんでした。	なし
156636	SSMC では、2 つの連携が同じ名前でもリストされます。	SSMC サーバーは、ユーザーが、異なるアレイ上に同じ名前でも複数の連携構成を作成することを防止できません。自動検出により、異なるアレイ上の連携が検出され、SSMC に表示されます。ユーザーは、異なるアレイ上に同じ名前でも連携があることを、ここで理解する可能性があります。	混乱を避けるために、一意の連携構成名を使用してください。重複した連携名が検出された場合、片方を新しい名前に変更してください。
161249	計測対象のクォータを示す現在値が、自動的に更新されません。	ユーザー、グループ、およびファイルストアのクォータをリストする画面では、計測対象のクォータを示す現在値が更新されません。	クォータテーブルを手動でリフレッシュして、クォータを更新ボタンを使用します。
164738	VMware VVols が、SSMC の仮想ボリュームのテーブルに表示されます。	SSMC は、3PAR アレイ内に存在する VMware VVol オブジェクトを管理しませんが、これらのオブジェクトが SSMC の仮想ボリュームテーブルに表示されることがあります。	テーブル内にこれらのオブジェクトが存在していても問題はないため、無視してください。
168354	Two-Factor 認証の場合に、PIN が繰り返し要求されません。	一部の環境では、ブラウザーが CaC カード/Two-Factor 認証デバイスに対して PIN を繰り返し要求します。	ブラウザーおよびスマートカードミドルウェアは、PIN の入力を要求する処理を行います。PIN をキャッシュするオプションがミドルウェアに含まれているかどうかを確認してください。 また、SSMC は、ブラウザーとの HTTPS 通信に、自己署名証明書を使用します。ブラウザーが信頼している発行者からの証明書を使用すると、入力要求の繰り返しが少なくなる可能性があります。

表は続く

問題 ID	問題	説明	対処法
184907 (190807、 193765、 224076)	Peer Motion のワークフロー内で、キャッシュに関連するエラーを受け取ります。	複数のボリュームを同時に受諾しているときに部分的に障害が発生した場合、連携にはその障害が通知されません。これにより、ボリュームがキャッシュにないというエラーメッセージが出力されます。	ワークフローを再試行してください。
186097	英語以外の PDF の目次が、英語で表示されます。	PDF の目次では、ローカリゼーション/国際化はサポートされていません。このため、サポートされている言語すべてで、目次は英語で表示されます。	なし
187321	VVSet の RHS のエクスポートセクションにデータが表示されません。エクスポートテーブルがタイムアウトします。	ポートを使用して VVSet をエクスポートしているときに、アクティブな VLUN の数が 86K まで増加した場合、RHS ホストのリンクがタイムアウトすることがあります。	既存のホストがあるポートに VVSet をエクスポートしないでください。
190077	重複排除の推定の結果テーブルの値が誤っています。	VVol プラグインを使用して重複排除セービングを推定すると、アクティビティの詳細が、重複排除の推定の結果テーブルから誤った値を返すことがあります。	なし
209577	一部のシステムを選択すると、ダッシュボードから例外またはスタックトレースエラーが表示されます。	—	別のページへ移動してから戻り、操作を再試行します。
216710	SSMC とストレージシステム間の失われた接続を復元すると、一部のアクティビティを表示できなくなります。	ストレージシステムへの失われた SSMC 接続のリストア後、特定のアプリケーションタスクが、アクティビティページから消去されます。	—
217616	アイドルセッションタイムアウトは、2FA/SSO でログインしたユーザーに対してサポートされていません。	セッションアイドルタイムアウト後、ユーザーセッションは、2FA トークン PIN の入力を求められずに、再認証されることがあります。	手動でセッションを終了するには、2FA トークン (CAC、仮想スマートカード、ソフトウェアトークン) をロックするか、切断してから、ブラウザウィンドウを閉じます。

表は続く

問題 ID	問題	説明	対処法
217655	RMC スケジュールは、ユーザーが要求したスケジュールと一致しません。	ボリュームを作成し、保護ポリシーとスケジュールを追加しましたが、作成されたスケジュールが要求したスケジュールと異なります。	SSMC のスケジュールの開始時間の入力が入力されたシステム時間と同じであることを確認してください。また、SSMC を使用したスケジュールの作成時に、SSMC と RMC 間でタイムゾーンに違いがないかどうかを確認してください。
218096	保護されたボリュームが移行されたときに、Peer Motion ワークフローで警告メッセージが表示されません。	Peer Motion ソース仮想ボリュームで RMC 保護が有効にされている場合でも、ソース仮想ボリュームの削除オプションが有効な状態で Peer Motion が実行された場合、ボリュームが削除されません。 さらに、RMC 保護ポリシーは Peer Motion によって自動的に移行されません。	RMC 保護されたソース仮想ボリュームを保持する必要がある場合は、Peer Motion の開始ダイアログの詳細オプションで、ソース仮想ボリュームの削除オプションを無効にします。 ターゲットボリュームで RMC 保護を必要とする場合、Peer Motion が完了した後にそれを構成します。
218444	数値のリストのフィルタリングがテキスト値を使用して実行されます。	CPG コピースペースなどの数値のリストをフィルタリングする場合、値が数値ではなく、テキストフィールドであるかのように、比較が行われます。たとえば、"23"のクエリ値は"123"のリストの値と一致します。	—

表は続く

問題 ID	問題	説明	対処法
220848	ディレクトリパスのテストボタンをクリックすると、SSMC は 500 エラーのディレクトリパスにアクセスできませんを返します。	<p>FIPS 対応モードで実行している SSMC は、System Reporter 共有ディレクトリパスを有効にするために、java.policy ファイルに更新済みの共有ディレクトリパス設定が必要です。</p> <p>注記: SSMC が FIPS モードで実行しているかどうかに関係なく、共有ディレクトリパスのとおり java.policy ファイルを更新します。</p>	<p>java.policy ファイルの System Reporter 共有ディレクトリパス設定を更新してください。ディレクトリの読み取り/書き込み/削除アクセス許可を提供し、SSMC を再起動して新しいポリシーを適用します。</p> <p>java.policy (セキュリティマネージャー) で権限を付与するまで、SSMC のカスタム構成された共有ディレクトリパスにアクセスできません。</p> <p>System Reporter グローバル設定で共有ディレクトリパスを構成するときに、Java セキュリティマネージャー (/opt/hpe/ssmc/jre/lib/security/java.policy) でそのディレクトリパスアクセス許可エントリも追加する必要があります。この設定を変更するには、それを有効にするために、SSMC を再起動する必要があります。</p>
222742	SSMC 3.1 以前から SSMC 3.2 以降へのアップグレード後に、SSMC が起動できません。	SSMC 3.1 で jetty-ssl-context.xml にキーと信頼ストアのカスタムパスワードが設定されている場合、SSMC 3.2 以降にアップグレードすると、カスタムキーストアと信頼ストアのパスワードが保持されません。	SSMC 3.1 以前からのアップグレード後、jetty-ssl-context.xml ファイル内のすべてのカスタムパスワードを更新します。SSMC 3.2 から 3.3 以降へのアップグレードは、この問題の影響を受けません。
227619	システムが Failed:timed out エラーメッセージを返します。	Failed:timed out は、アクションがタイムアウトしたか、またはアクションがまだ進行中で後で完了する可能性があります。このタイムアウト状態は、システムがビジーのときに発生する可能性があります。	開始されているアクションの結果を確認し、必要に応じてそれを再試行してください。
227621	しきい値アラートのメール通知を編集すると、編集操作が成功した場合でもアクティビティが赤で表示されます。	しきい値アラートのメール通知の編集時に、しきい値アラートに更新された値が反映されるか、または更新されてもアクティビティのステータスが赤になります。	なし

表は続く

問題 ID	問題	説明	対処法
230914	SSMC は HPE InfoSight Web サイトからデータをフェッチできません。	SSMC は HPE InfoSight Web サイト証明書の検証を必要とするように構成することができます。場合によっては、お客様が以前のバージョンからアップグレードした後や HPE InfoSight Web サイト自体で証明書が変更されている場合など、HPE InfoSight Web サイトに正しい CA 署名付き証明書を提供する必要があります。	なし
236094	SSMC では、すべてのモジュール全体で、ユーザーがダイアログ（作成または編集ページ）をクリックした場合、およびユーザーがキーボードから ENTER キーをクリックして、フォームページを送信した場合、SSMC がリロードされ、URL にすべてのダイアログ（作成または編集ページ）パラメーターが表示されて、ダッシュボードページにリダイレクトされます。	この問題は、以下の環境の Internet Explorer で見られません。 <ul style="list-style-type: none"> Windows 2012 R2 および Windows 2016 サーバー上の Internet Explorer 11。 Internet Explorer セキュリティ強化の構成が有効にされています。 about:blank 内部 IE ページが、IE セキュリティ強化の構成の信頼済みゾーンに追加されていない場合。 	<ul style="list-style-type: none"> Google Chrome または Mozilla Firefox などのサポートされているブラウザを使用します。 IE セキュリティ強化の構成をオフにするか、または about:blank ページの URL を IE セキュリティ強化の構成の信頼済みゾーンに追加します。 マウスを使用して、SSMC の作成または編集ページの送信ボタンをクリックします。
237823	VMware vSphere ハイパーバイザー (ESXi) 6.5 および 6.7 クライアントからの SSMC アプライアンスのデプロイで、異なる構成モードを提供していません。	デフォルトで、アプライアンスのデプロイには、アプライアンスで使用できるすべての構成モード（小、中、大）が示されます。ただし、ESXi 6.5 U1 および ESXi 6.7 U1 OS バージョンにアプライアンスをデプロイする場合、小構成モードしか表示されません。	デプロイに VMware vSphere ハイパーバイザー (ESXi) 6.5 Update 2 以降のバージョンを使用してください。

表は続く

問題 ID	問題	説明	対処法
242192	ストレージシステムが最適なドライブ数より少ないときに、ストレージシステムの飽和レベルを超えることがあります。	ストレージシステムが最適なドライブ数より少ない場合、飽和レベルが 100%を超えることがあります。推奨スループットは、最適しきい値の指標になります。ストレージシステムは、飽和が最適なしきい値内にあるときに、適切な機能が期待されません。また、システムはこのレベルを超えて、1 秒間にさらに多くの入力または出力を供給することができますが、遅延が大きくなる可能性があります。	なし
243942	TUI からの静的 IP を使用した Hyper-V アプライアンスの初回の構成が失敗します。	これはシステムの電源投入後、90 秒以内にネットワークを構成し、DHCP ネットワークの構成に時間がかかる場合に発生します。この問題は、デプロイ後、アプライアンスの最初の起動時にのみ見られます。後続の起動ではネットワーク構成を実行しないため、見られません。	90 秒後にネットワーク構成を行ってください。
244097	すべてのストレージシステムへの接続が失われました。ストレージシステムの接続は、Administrator Console にログインして管理できます。	この問題は、詳細なシステムパフォーマンスおよび分析レポートの有効が有効になっており、SSMC に接続されている少なくとも 1 つのアレイで CLI 接続が多すぎますが発生している場合に起こります。	そのアレイへの CLI 接続を行うクライアントの数を確認して減らし、TUI を使用して SSMC サービスを再起動します。
—	iSCSI ポートでレイテンシが報告されます。	ストレージシステムが iSCSI ポートで構成されている場合、iSCSI ポートでレイテンシが報告される既知の問題があります。このため、パフォーマンススコアが 10 に近い大きな値になる可能性があります。	—
245387	SSMC Administrator Console でシステムが Two-Factor 認証用に構成されていないと、SSO 障害が発生する可能性があります。	—	SSMC Administrator Console で、すべてのシステムに Two-Factor 認証が正しく構成されていることを確認します。1 つの構成が誤っている場合でも SSO ログインの機能に影響を与える可能性があります。

表は続く

問題 ID	問題	説明	対処法
246210	SSMC サーバーが起動しないことがあります。	アプライアンスの最初の起動時または TUI 経由でネットワーク構成の変更が行われた場合に、SSMC サーバーは起動に失敗するか、ポートを正常に開けないことがあります。そのため、SSMC はブラウザから到達不能のままになります。	すべての SSMC サービスを再起動します。
246300	システムまたはレポートパネルのパフォーマンスビューでの http 500 エラー。	この問題は、いずれかのオンノードの System Reporter サービスの応答が有効でない場合に発生することがあります。この問題は、システムまたは履歴レポートのパフォーマンスビューで見られます。	ブラウザページをリフレッシュして、パフォーマンスビューまたは履歴レポートデータをリロードします。

関連情報

SSMC の最新のドキュメントは、Hewlett Packard Enterprise Information Library から入手できます。次のドキュメントが提供されています。

- ・ HPE 3PAR StoreServ Management Console 管理者ガイド
- ・ HPE 3PAR StoreServ Management Console ユーザーガイド
- ・ HPE 3PAR コマンドラインインターフェイス管理者ガイド
- ・ HPE 3PAR StoreServ ストレージコンセプトガイド
- ・ HPE 3PAR Peer Motion および HPE 3PAR Online Import ユーザーガイド
- ・ HPE 3PAR File Persona ユーザーガイド

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 (docsfeedback@hpe.com) へお寄せください。この電子メールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。